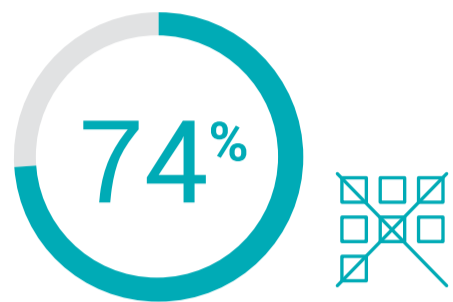


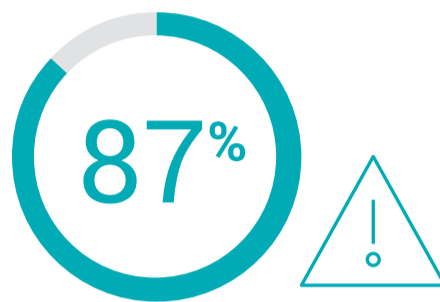
クラウドでモダナイゼーションを成功させるための3つの鍵

企業がアナリティクスとアプリケーションをクラウドへ移行してモダナイズ（最新化）したり統合したりする場合、どうすれば短期間で成功させることができるのでしょうか？

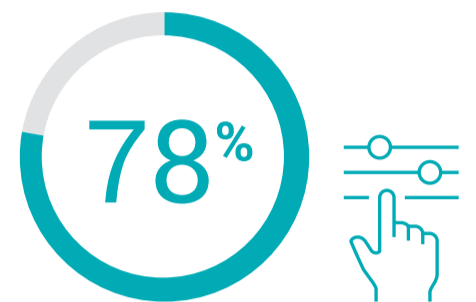
高い失敗率：



失敗に終わるアプリケーション最新化イニシアチブの割合¹



失敗に終わるデータサイエンスプロジェクトの割合²



データツールが複雑すぎると考えているユーザーの割合³

失敗の原因となっている、よく見られるミス：



複数のポイント製品の使用

複数のポイントソリューションの寄せ集めでは、コストと複雑さが高まってしまいます。



APIオンリーのアプローチ

APIを使ったアプリケーションの連携には限界があります。拡張が可能で長期的なエンタープライズクラスのソリューションではありません。



手動によるアプローチ（手作業によるコーディングなど）

手動によるアプローチは、コストが高く、運用化と保守が困難で、スキルを持つ開発者を必要とし、再利用性と将来性に欠けます。



制限のあるPaaSツールの使用

制限のあるPaaSやIaaSツールは、マルチクラウド環境では使用できません。また、信頼できるデータを提供するための完全な機能も備えていません。

効果的なアプローチのための3つの鍵：

1

簡索性

あらゆるユーザーが使用できる、コーディング不要でフットプリントゼロのセルフサービスツール

2

生産性

人工知能 (AI) を活用したインテリジェントな自動化により、簡単に統合を構築、運用化、保守

3

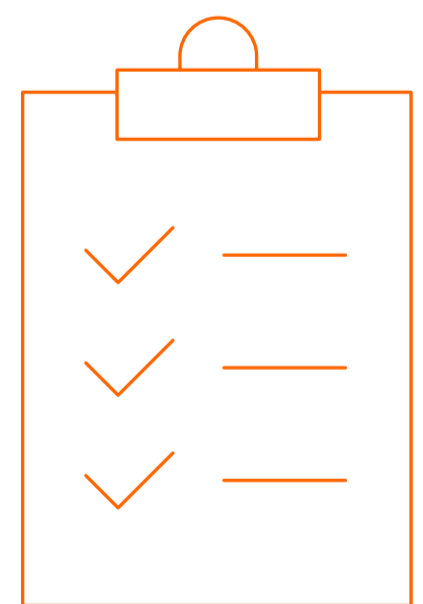
拡張性

クラウドネイティブ、マイクロサービスベースで、柔軟な拡張性を備え、単一かつ包括的な、将来にわたり利用できるAPI主導のプラットフォーム

インフォマティカのソリューションの利点

インフォマティカのインテリジェントな自動化アプローチにより、次のことが実現します。

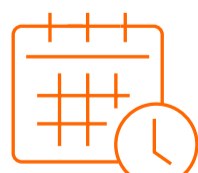
- データのライフサイクル全体をインテリジェントに自動化して、コストの最適化とTCO（保有コスト）の削減を実現
- 短期間で価値を発揮して迅速なROIを実現
- 新しい機能も簡単にオンボーディングして、ビジネスの俊敏性を向上
- ひとつのプラットフォームで将来にわたる投資効果を確保
- 柔軟な拡張性でエンタープライズのあらゆるマルチクラウド需要に対応
- すべてのユーザーにセルフサービス体験を提供



結果：



手動タスクの自動化によるデータ利用者の生産性向上率⁴



データエンジニアが毎月短縮できた時間の割合⁵



実現した平均ROI⁶



パフォーマンスの改善率⁷

詳細は、informatica.com/solutions/cloud-modernization.htmlをご覧ください。

¹ Advanced Global Research社

² Venture Beat社『Why do 87% of data science projects never make it into production?』

³ Harvard Business Reviewによるサービス調査

⁴ インテリジェントな自動化ソリューションと手作業でのコーディングを比較したインフォマティカの社内調査

⁵ 同上

⁶ Nucleus Research ROI Guidebook: Informatica iPaaS

⁷ Informatica Advanced Pushdown Optimization使用時のパフォーマンスを比較したインフォマティカの社内調査

